

カーペット（繊維系床材）のメンテナンスレポート

クリーニング方式編 カーペットの洗浄クリーニングとメンテナンスポイント

各洗浄方式における事前バキュームについて



【作業工程】

- 1) 粗ゴミを回収する。
- 2) 作業エリアのパイルが潰れている方向を確認
- 3) アップライトバキュームで、洗浄するエリアをバキュームする。



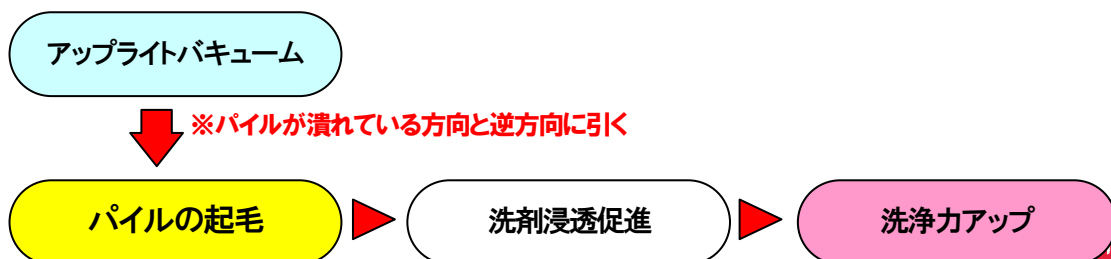
ウィックバックを防止する事、洗浄効果を向上させる事を目的に行う。
 洗剤を使用するクリーニング作業前にバキュームを行うもう一つの理由が、パイルを起毛させる事であるため、使用するバキュームは必ずアップライト型バキュームを使用する必要がある。

洗剤の浸透を早め、洗浄効果をUPさせるために、パイルを起毛する

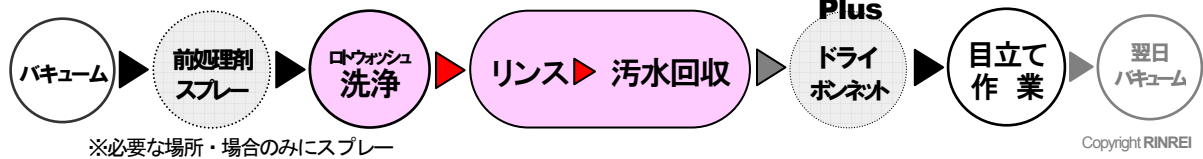
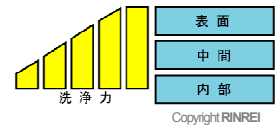
パイルが潰れたままの状態でも、表面的な汚れを除去するだけで、パイル内部の洗浄・除去は行えないので、洗浄前のパイル起毛は必須の作業になる。
 洗浄前に行うバキューム作業は、パイルの潰れた方向と逆の方向にバキュームを行う必要があるため、**洗浄前に実施するバキュームは、必ずアップライトバキュームを使用し、バキュームを行う前にパイルの潰れている方向を確認した上で、潰れている方向とは逆の方向に、ゆっくりとバキュームを引きながらバキュームを掛ける必要がある。**



アップライトバキュームを使用したバキューム作業の方向



7b ニュー2ステップPlus方式



Plus 方式



作業効率: 120 m²/1時間・1名
 使用洗剤: アルカリ発泡性クリーナー
 ※前処理剤はプレスプレークリーナー
 使用機材: ・ロトウォッシュR4B
 ・エクストラクター
 ・目立てブラシ、(スプレーヤー)

- [長所]
- 汚れの激しい所に適した方式で、パイル内部の汚れも除去することができる。
 - 洗剤の残留が少なく、再汚染されにくい状態で仕上がる。
 - 広いスペースもムラなく均一に仕上げることが可能。
 - ロールブラシによる洗浄で、カーペットパイルを傷めにくい作業が行える。
 - ドライボンネットを行う事で汚れ除去性向上と乾燥時間の大幅短縮が可能。

- [短所]
- 2工程になることで、作業員数、使用する機械が多くなる。
 - 水の多量使用により乾燥時間が長くなり、織りカーペットでは縮みを起こし易くなる。
 - ドライボンネットを行う事で、毛足の長いカットパイルへの適応性が低下する。

(メンテナンスポイント)

作業を始める前に、カーペットの施工方法を確認し、グリッパー工法などカーペットが縮んだ際に問題のある施工かどうかを確認し、必要に応じて釘打ちなどの対策を取ります。

洗浄力の高いアルカリ洗剤を使用して、タテ回転ブラシのロトウォッシュで洗浄する方式で、洗浄ムラになりにくく作業による作業品質のバラツキもありません。 ※アルカリ洗剤はウールなど天然素材には使用できません

作業前に汚れの多い箇所はプレスプレー液を予め噴霧器などでスプレーしておくことが重要です。

また、汚油脂汚れや汚れの激しい場所では洗剤を50℃程度の温水で希釈して洗浄を行うと効果的です。

歩行量が多くパイルが潰れたエリアは、パイルの潰れ方向と同じ方向に対して洗浄し、パイルを起こしながら洗浄を行う必要があります。

洗浄作業終了後、目立てブラシを用いてパイルの目立てを行っておくことで、乾燥を早める効果があります。

洗浄適性一覧	カットパイル		ループパイル		カット&ループ	
	毛足短い ペロア等	毛足長い サキノニー等	高低差あり H/Lループ等	レベルループ	ハイカット ロールアップ	レベルカット レベルループ
アキスミンスター	○	×	/	/	●	○
ウルトン	○	×	/	/	●	○
タフテッド	○	▲	●	○	●	○
タイルカーペット	○	▲	●	○	●	○
コードカーペット	/	/	/	○	/	/
電着(人工芝など)	○	▲	/	/	/	/
ニードルパンチ※	● パイルの無いカーペット					

Copyright RINREI

○:適している ●:適するが制約あり ▲:あまり適していない ×:適用不可